

50th

豊 猿 投 町 か ら  
田 市 へ 。 ら

猿投町から豊田市へ。

猿投地区 豊田市合併50周年記念誌



# ごあいさつ



豊田市長 太田 稔彦



猿投地区豊田市合併50周年  
記念事業 実行委員会会長 天野 弘治

このたび、「猿投地区豊田市合併50周年記念誌」が発刊されますことを心よりお祝い申上げます。また、猿投地区の皆様には、日頃から市政へご理解とご協力を賜り深く感謝申上げます。

旧猿投町は昭和42年に豊田市と合併しましたが、当時の猿投地区の人口は2万2500人程でした。合併後は住宅団地や工業団地の造成、鉄道の開通、大学・高等学校の誘致などをきっかけに大きく発展し、平

猿投町が豊田市と合併するより前の昭和31年、わたしは西加茂郡猿投町民となり、道路脇に家が数件しか建っていない中を歩いて青木町の自宅から猿投農林高校へ通っていました。学校の周囲は田んぼや雑木林など、優雅でのどかな田園風景が広がり、北方向には雄々しくそびえる猿投山も望めました。

しかし、昭和45年に市街化区域と市街化調整区域の区分が決まります。また、昭和62年以降は、人々の寄りどころである交流館などの増改築が進み、安全管理が行われます。

成30年1月現在の人口は約7万2800人と合併当時の3倍以上になりました。これらの発展は、猿投地区の皆様のたゆまぬ努力の賜物と深く敬意を表します。

本市は、昨年「第8次豊田市総合計画」を策定し、将来都市像をつなぐ暮らし

「WE LOVE とよた」の取組を推進してまいりますので、

今後とも皆様のご協力をお願

い申し上げます。

おわりに、本誌の編集にあたる皆様に、心より敬意を表す

りご尽力いたきました関係

者の皆様に、心より敬意を表すとともに、猿投地区のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

楽しいふるさとを目指し、幸せに感じる「わくわくする世界

# 猿投地区豊田市合併 50周年記念誌

## Contents

ごあいさつ	003
各地域の紹介	006
井郷地域	006
石野地域	012
猿投地域	018
猿投台地域	024
保見地域	030
各地区の変遷・学区の説明	036
合併50年のあゆみ	037
猿投地区50年の記録	038
猿投の今昔	056
猿投の50年 わたしの思い出	068
未来のさなげ	072
未来を担う猿投の仲間	074
こどもたちが考える 未来のさなげ	090
こんな猿投にしたい! 市民からのメッセージ	096
猿投のこれから 大型製材工場	098
豊田北バイパス	099
民芸の森	100
猿投地区豊田市合併50周年記念式典	101
猿投のお祭り	106
猿投偉人伝	108
猿投の自然	110
猿投の史跡・文化財	112
データで見る猿投	114
協賛企業	116
あとがき	126
編集後記	127
参考文献	128

## 猿投地区

SANAGE

Toyota city



亀首町  
籠川と猿投山



加納町  
猿投温泉

平戸橋町  
勘八水管橋



平戸橋町 平戸橋



SANAGEDAI area

記念座談会「次世代へ伝えたい猿投のこれまでとこれから」



東広瀬町 矢作川

東広瀬町 旧三河広瀬駅

保見

猿投

井郷

石野

猿投台

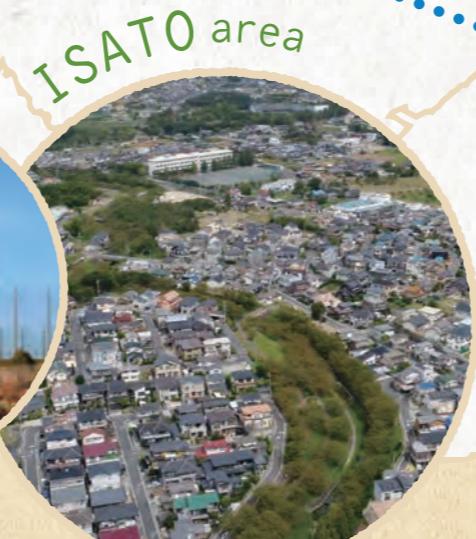


保見ヶ丘 保見団地

HOMI area

高町 運動公園ソフトボール場

井上・四郷町  
水無瀬川



# 井郷

写 真  
井郷地域のみなさん  
猿投コミュニティセンターにて  
平成29(2017).11.26



## 井郷地域の変遷



多目的なスポーツ施設がそろった豊田市運動公園

四郷駅前から運動公園へ移転したマレットゴルフ場

### 豊田市運動公園

高町で昭和60年に整備が始まった「豊田市運動公園」は、第一期工事で陸上競技場と野球場がオープン。平成17年には第二期工事の西地区も完成して体育館、弓道場、アーチエリー場、ソフトボール場がそろった。多目的スポーツ施設として四季を通して多くの市民に利用されているほか、中学校や高校の部活動の大会で市内外の若者たちにも利用されている。また平成29年には四郷駅前にあったマレットゴルフ場が運動公園へ拡張移転され、連日多くの高齢者でぎわうようになった。

豊田市運動公園の課題は、鉄道駅からのアクセスが悪いことだ。名鉄三河線の猿投駅以北が廃線になってからは猿投駅から歩くか、おいでんバスに乗らなければならなくなり、若者たちに不便な思いをさせていている。地元には猿投駅からひと駅延伸して「運動公園駅」をつくりたい構想もあるが、今のところ実現は厳しい状況だ。運動公園の広大な駐車場は山村地域の人々が車から電車に乗り換えるパーク＆ライド駐車場に活用できる。また、猿投駅にある車両基地を運動公園駅へ移転すれば、猿投駅周辺のまちづくりにも余裕ができる。「運動公園駅」は何としても実現させたい悲願だ。



豊田市・知立方面へ向かう電車の始発駅、名鉄三河線の猿投駅

### 井郷地域の概要

井郷地域周辺の台地は明治以降の開拓によって多くの人々が住むようになった。とりわけ明治44年に開墾事業に着手した井上徳三郎は、移住者の歓迎に努めて開墾面積を拡大。大正12年には寺部の農学校が群制廃止で経営難にあつたため、農場の一部を寄付して現在の県立猿投農林高校を誘致した。また大正13年には三河鉄道を敷設するため猿投駅の用地も寄付した。こうした功績が猿投村から認められて昭和11年、猿投村大字四郷字東山の地名は「大字四郷字井上」に改称され、その後、猿投町が豊田市と合併した昭和42年に「豊田市井上町」となった。

トヨタ自動車元町工場の完成（昭和34年）など市内の産業の発展により、井上町はベッドタウンとして住宅が増していく。昭和50年には青木小学校から分離して四郷小学校が開校。さらに昭和60年には井上小学校も開校し、井郷中学校も開校し、「井郷地域」が誕生した。井郷地域は現在、次の5自治体で構成されている。《天道、下古屋、井上、高町、御船町》



御船町に群生するシデコブシ



御船湿地のシラヒゲソウ自生地は、豊田市の天然記念物に指定されている



桜並木が道の両側に続く水無瀬川緑道



運動公園 陸上競技場



25メートルプールとトレーニングルームを備えた井上公園水泳場



## 井郷地域の変遷 Isato



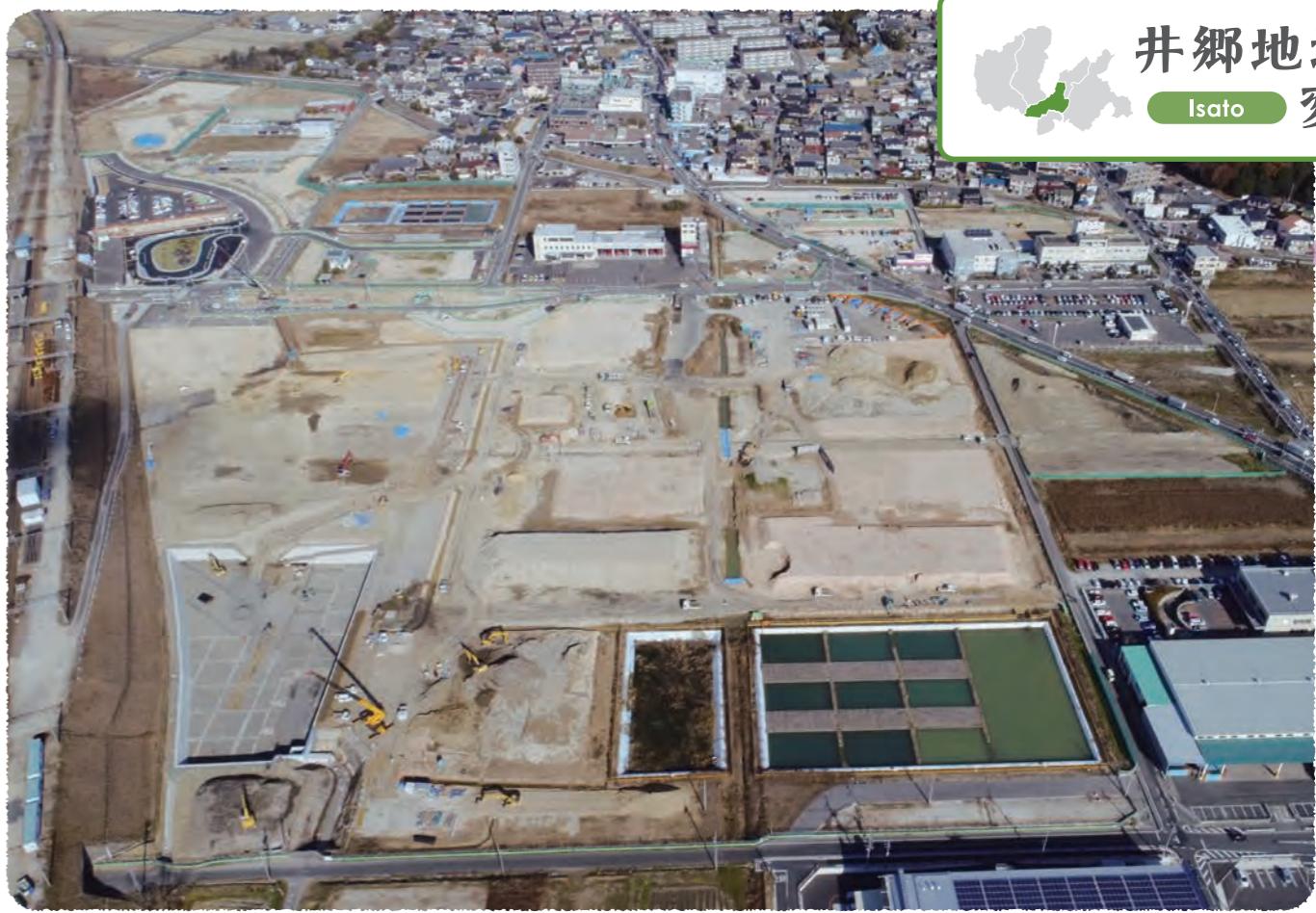
福祉施設が集まつた通称「福祉村」



昭和47年に開所した消防署四郷出張所(現在は移転)

### 福祉村

運動公園のすぐ隣には、昭和の終わりから平成初期にかけて3つの大きな社会福祉法人（福寿園・無門福祉会・とよた光の里）が集まって特別養護老人ホーム、知的障がい者施設、障がい者支援施設をつくり、通称「福祉村」を形成した。そのほか公共施設としては昭和47年に消防署四郷出張所が開所。同57年には猿投コミュニティセンターが業務を開始した。平成元年には御船町に公益財団法人豊田加茂環境整備公社も設立されている。また平成



四郷駅周辺で進められている地区画整理事業

愛知環状鉄道四郷駅周辺の地区画整理事業は平成28年に起工された。既に商業施設が建ち始めているが、本格化するのはこれからだ。完成目標は2022年で、マンションや複合商業施設、戸建て住宅街、公園もつくられる。また井郷地域の大きな課題である国道419号の慢性的な渋滞を解消するため、4車線化の拡幅も行われる。すぐ南では国道153号豊田北バイパスの整備も進んでおり、とりわけ発展が期待されている。

### 四郷駅周辺の発展



30年夏には豊田市が誘致した大型製材工場が御船町で稼働し始める。豊田市内のみならず、県内や矢作川流域の森林を健全に育成していくための、木材利用推進の核施設として期待されている。



平成30年夏から操業を始める大型製材工場



猿投山から神様が乗ってきたとの言い伝えが残る御舟石



浦野酒造の隣に江戸時代と変わらぬ姿で現存する旧飯田街道



愛知環状鉄道 四郷駅



県道豊田明智線と東海環状自動車道



猿投山方面へ伸びる東海環状自動車道



# 石野

写 真  
石野地域のみなさん  
石野交流館にて  
平成29(2017).12.3





東海環状自動車道 豊田勘ハイターチェンジ



国の登録有形文化財となっている  
旧名鉄三河線の三河広瀬駅(上)と西中金駅(下)

## 交通

石野は古くから飯田街道（現在の国道153号）が通る交通の要所で、現在は猿投グリーンロード（昭和47年開通）の力石インターチェンジ、東海環状自動車道（平成17年開通）豊田勘ハイターチェンジもできて、各方面への交通も便利な地域になった。その一方で、春や秋の行楽シーズンには、多方面から観光地へ向かう車が集中するため、国道153号の渋滞が課題になっている。

鉄道は昭和初期に名鉄三河線の猿投・西中金駅間8・6kmが開通。昭和40年代の三河広瀬駅は藤岡・小原方面から豊田の街へ出かける唯一の交通手段としてにぎわい、近隣で採掘される粘土を輸送する



花崗岩の頂から豊田市街地が望める小呂町の大谷山展望台

## 石野地域の概要

石野地域は豊田市のほぼ中央部の矢作川両岸に位置している。平野部から山間部への入口にあたり、歴史、文化、自然の豊かな美しい地域だ。豊田市を舞台に撮影された映画「星めぐりの町」でも重要なロケ地となつた。

石野の名が誕生したのは明治39年の大合併の時だ。四谷村、七重村、石下瀬村、中野村の4村が合併して石野村となつた。その後、昭和30年には猿投町と合併し、昭和42年の合併で豊田市石野地

## 観光・スポーツ

石野の観光・スポーツには、ゴルフ場や乗馬クラブ、釣り池、カヌー練習場、ササユリ群生地など、矢作川を始めとする豊かな自然を生かしたものが多い。

勘八峠の越戸ダム湖はボート競技の練習場になっており、県立猿投農林高校はここで練習して、全国大会でも常連の強豪と呼ばれるようになった。五輪選手も輩出している。また、富田町の矢作川「源氏の瀬」はカヌースラローム競技の練習場になっており、リオ五輪の銅メダリスト羽根田卓也さんが子どもの頃から練習した場所としても知られている。

ゴルフ場は昭和50年に南山カンטריクラブ、翌51年に豊田パブリックゴルフ場（現ゴルフ俱楽部大樹豊田コース）がオープン。平成5年には中京ゴルフ石野

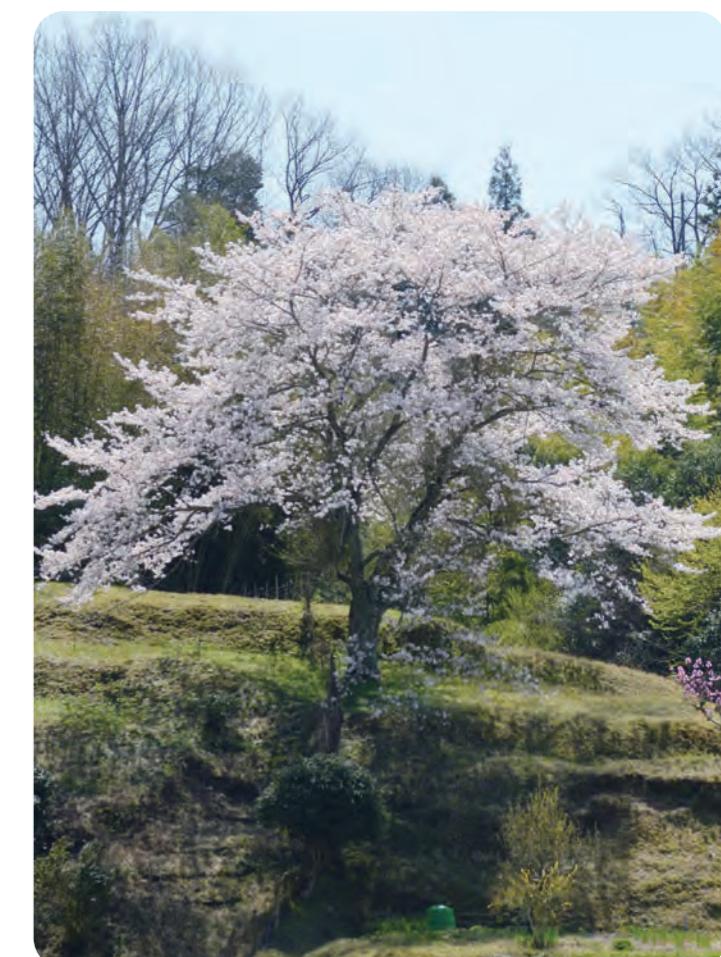


カヌースラローム競技の練習場になっている  
越戸ダム湖(左)や源氏の瀬(右)

コースも営業を始めた。平成19年には石野サーキットがオープンし、モータースポーツ愛好家が集まる地域にもなった。



おいでんバスが  
発着する広瀬バス停



映画「星めぐりの町」のロケ地となった成合町の一本桜

域となつた。現在、次の19自治区で構成されている。  
〔藤沢、松嶺・押沢、富野町、東広瀬町上切、東広瀬下切、石中切町、千鳥・成合、上高町、七重、勘八、小峯町、国附、城見町、下室町〕

石野地域の歴史や伝統文化が  
読み込まれた石野カルタ



石野カルタを使った大会も開催

ササユリの保護活動が続く  
松嶺町の「ささゆりの里」



中金町の岩倉神社の農村舞台(上)で毎年開かれる歌舞伎公演(下)



## 過疎・高齢化の課題

石野は他の山村地域と同様に過疎・高齢化が進んでいるが、都市に近いためか対策が遅れた感がある。都市に近いメリットを生かした過疎対策が望まれている。

期には3千人の客が訪れた。現在はイノシシによる食害や自然減少などで株数が減り、保存会メンバーの高齢化もあって活気を失っているが、保護活動は続けられている。

旧西中金駅のすぐ近くにある岩倉神社の農村舞台（文化5年造立）は平成12年に市の有形民俗文化財に指定され、修復工事が行われた。同時に地元で石野歌舞伎保存会が設立され、歌舞伎の伝承に力を入れている。毎年10月には定期公演もある。

## 盛んな地域活動

石野では近年、住民による様々な地域づくり活動が盛んに行われており、事例を挙げれば切りがないほどだ。

平成10年には「松嶺町ささゆり保存会」が設立され、ササユリの保護・増殖に力を入れるとともに、観光客のために散策路も整備してきた。多いときには1万本とも言われる数の花が咲き、開花時



東海豪雨により矢作川が越水し、家屋の浸水被害が大きかった藤沢町



## 災害

昭和47年の豪雨災害では石野でも各地でかけ崩れや道路寸断などの被害があり、災害に備える意識が高まった。平成12年の東海豪雨による洪水では、県道まで水位が上がり、藤沢町の川沿いの家屋が大きな被害を受けた。また昭和36年から40年間使われてきた鉄製の富国橋も流失し、平成21年になつてようやく高い場所に新富国橋が新造された。

近年のイノシシやシカの増加も災害の一つと言えるかもしれない。農作物への食害がひどく、集落一帯を防護柵で囲う風景も普通になつていている。



市街化区域を含まない特定の小学校区でも建築行為が許可されるようになり、造成が進む東広瀬町



シデコブシが群生する上高地



男性と女性のシンボルを形づくっている巨石が見られる、中金町の「おはせの宮」



野口町に建つ詩人・野口雨情の「七つの子」の詩碑



しゃくやく姫の塚

# 猿投

写 真  
猿投地域のみなさん  
加納小学校にて  
平成29(2017).11.25

